

阿下喜地区は、歴史の街、商業の街として現在まで発展してきました。子どもたちはその地区を訪ねることで色々な発見をすることができました。



We like Ageki

3年生は東町にお住まいのものづくり名人、山上さんの案内で、見性寺や万葉の里公園を見学した後、本町の稲垣邸へ。稲垣さんご夫婦の温かいお迎えを受けて、早速マンボのある小屋へ直行。「冷たくて、きれいな水。気持ちがいい」「小屋まで作ってあるなんてすごい。水を大事にしているね」「一年中、いつも同じ14度なんて!」と、先人の知恵と水の大事さに触れて大感激の3年生でした。

いにしえに 思いを馳せて

6年生は、歴史学習で大西神社にある古墳見学へ。さて、来てはみたものの崩れていてどこが古墳なのかさっぱりわからない。まずは、古墳探しから。「きっと、ここのごんもりしたふくらみだと思う」「いや、ここじゃないかな」その後もみんなで右往左往。「はっきりはわからないけど、この崩れた石垣の所がひょっとして古墳かも」と結論づけ帰途に。古墳があったことも知らなかった6年生が、いにしえに思いをはせたひとときでした。



いなべ市立 十社小学校

希少生物の住む“田切川”を学びの場に

十社校区には、アカザなど珍しい淡水生物が生息しています。本校では、この希少生物の保護と環境の整備・保全を目的に生活科や総合学習で田切川と関わる授業を行っています。

低学年の生活科では、川遊びを楽しんだり、アブラハヤ・サワガニ・ヘビトンボなど、川の生き物を捕まえたりしながら郷土の自然に親しんでいます。

高学年では、三重県環境学習情報センターの方に来てもらい、水質検査を行いました。子どもたちの持ち寄った生活排水を※COD(化学的酸素要求量)検査薬で調べたところ、米のとぎ汁は100mg/l、食器洗いの水は50mg/l、洗濯物の水は、20mg/lでした。それと比較して、田切川の水は、3~5mg/lで大変きれいでした。この学習を通して子どもたちは、たくさんの種類の生物が住む清流“田切川”を守っていこうという意識を持つことができました。

これからも、田切川を学びの場として、地域の豊かな自然を大切に子どもたちを育てていきたいと考えています。

※COD：汚れの指標で、数値が大きいかほど汚れていることを示します。



いなべ市立 東藤原小学校

生きものとふれあう「ふるさと」学習

今年も学校の池にモリアオガエルが産卵をしに帰ってきました。「ふれあいトープ」と名付けられたその池には、オタマジャクシ・イモリ・ヤゴ・メダカなどが住み着いています。教室で孵化させ、観察・飼育した後「ふれあいトープ」

に返します。子どもたちは身近な生き物と触れ合える池の活動が大好きです。もう一つ身近な自然として員弁川があります。学校から歩いて行ける距離にあるので、「員弁川の生き物探し」も子どもたちの大好きな活動です。学校の玄関には、「ひがしふじ水族館」と名付けられたミニ水族館があり、員弁川に生息する魚が飼育されていて、来客者や低学年に人気のコーナーとなっています。

本校では、このような地域の自然や人・文化に触れ学ぶ活動を「ふるさと」と名付け、子どもたちの感性を育む活動として大事にしています。

